

2019年8月期 決算説明資料



株式会社デザインワン・ジャパン

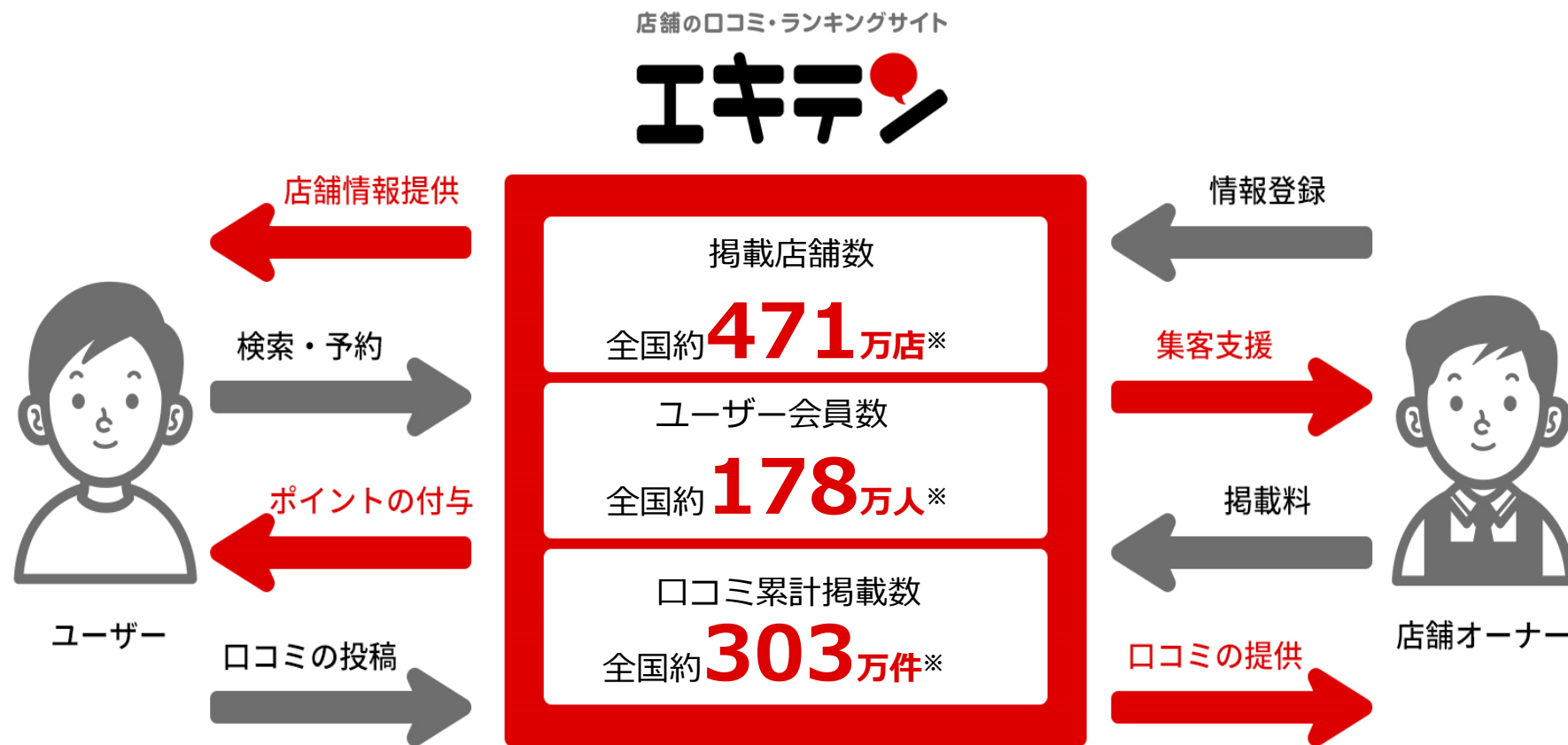
6048・東証1部

2019年10月11日

国内最大級の「オールジャンル店舗データベース」

オールジャンル475万店舗超、150業種以上を網羅

ユーザーと店舗を結ぶ集客/情報プロバイダーとしての役割を担う



※2019年8月現在

エキテンの特徴 - オールジャンル

オールジャンル475万店舗、150業種以上を網羅

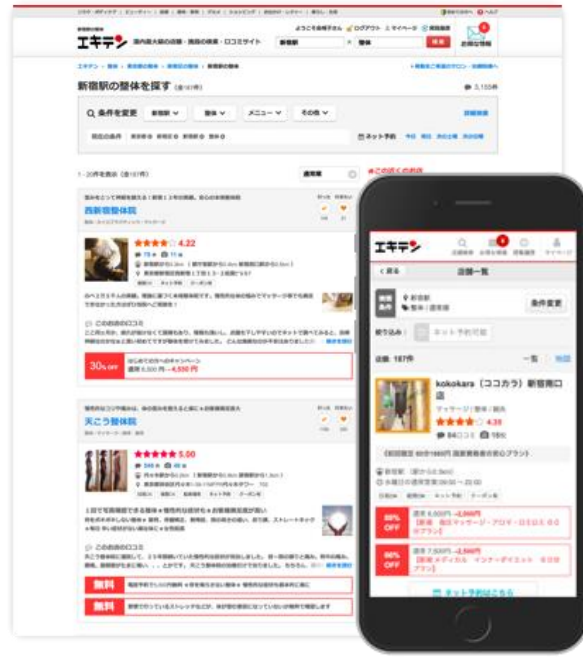
日常生活をすべてカバーするお店情報



トップページ



検索一覧ページ



店舗ページ



駅やジャンルで店舗検索

店舗を比較検討

店舗情報やクーポンGET

1

2019年8月期通期業績は売上21.8億円・営業利益4.2億円と減収減益

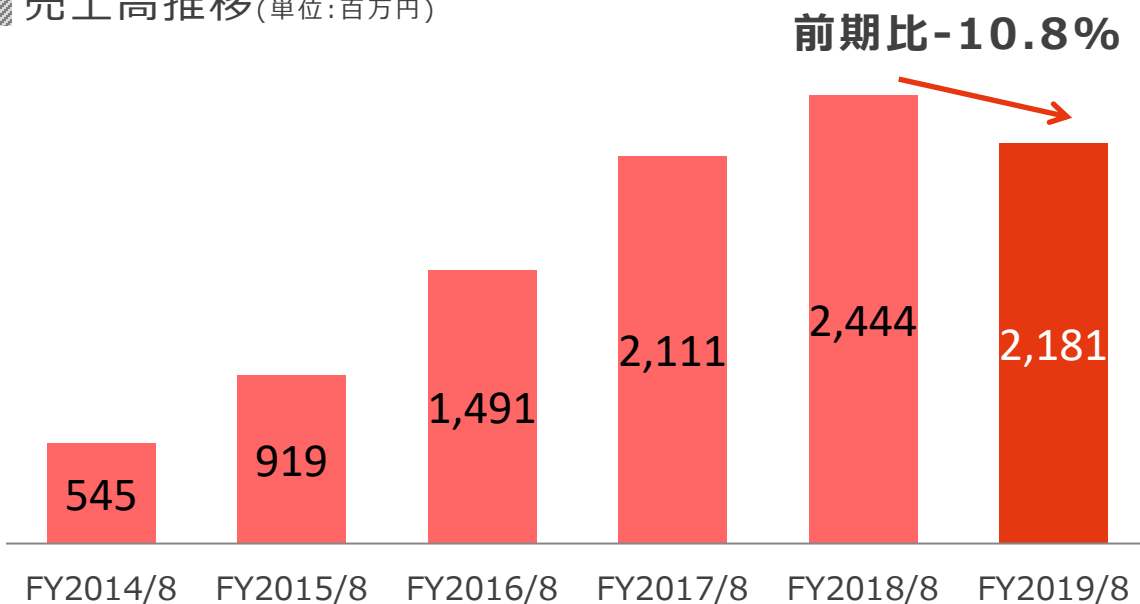
有料会員数の低減によりメインであるエキテン掲載料収入が減少。売上高の減少が直接利益額に影響を与える利益構造のため営業減益。

2

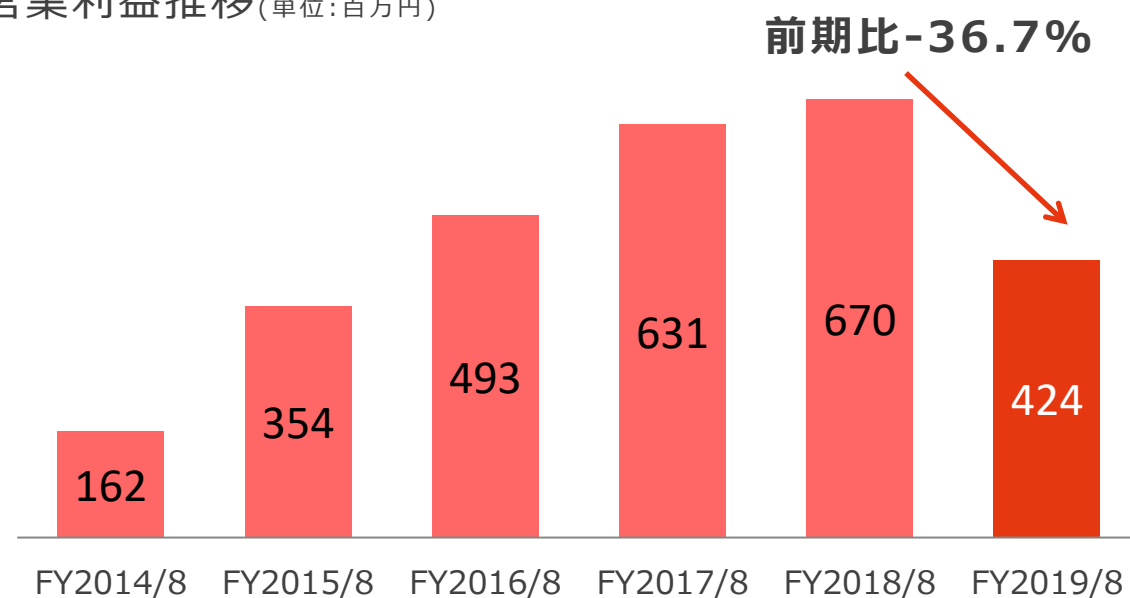
無料掲載店舗数は約220,000店、有料掲載店舗数は約20,000店

有料会員は集客力の低下などの理由で解約が大幅に増え、初の純減となった。期の終盤には解約件数は下げ止まったものの、店舗数の回復（純増）には至らず。

売上高推移(単位:百万円)



営業利益推移(単位:百万円)



※FY2019/8末より連結決算に移行しており、FY2018/8以前の売上高・営業利益は単体数値です

通期業績ハイライト

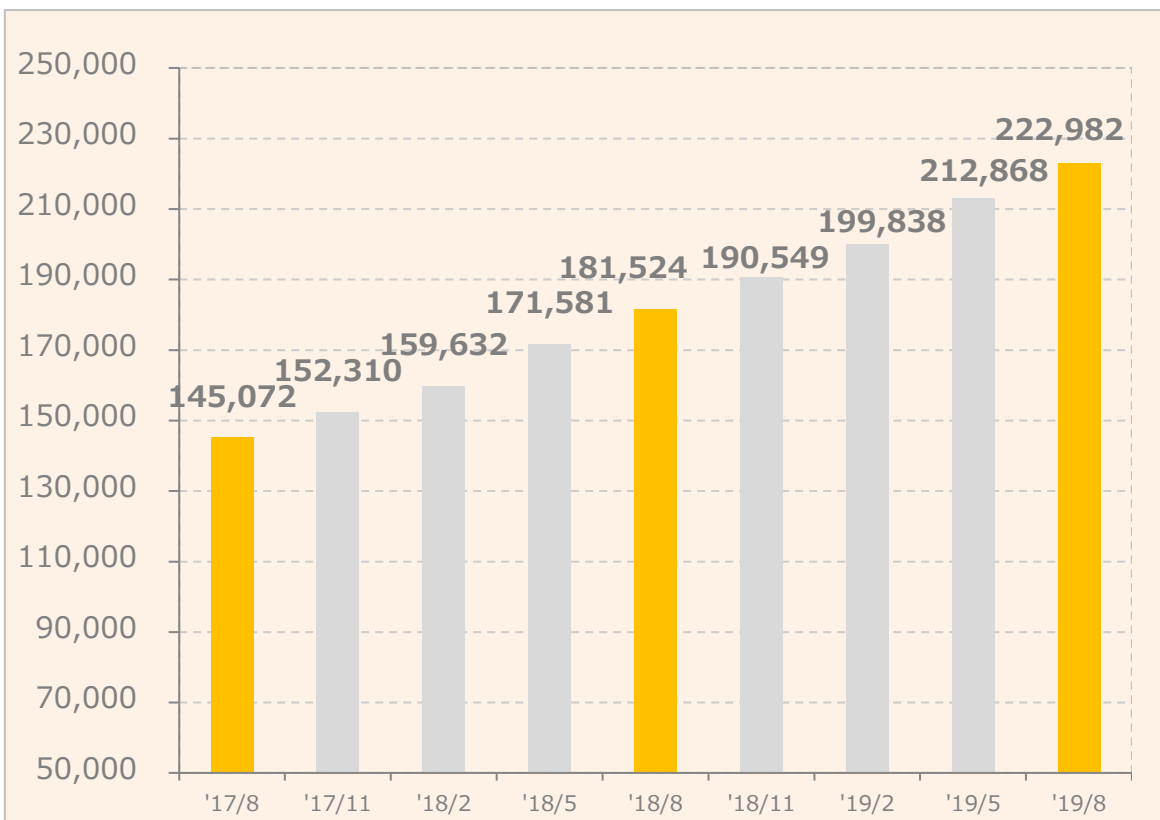
- 有料掲載店舗数の減少により、売上高、営業利益とも前期を下回る数値
- 有料掲載店舗数は、大口顧客の解約の影響があったものの、それを除くと業績予想通りの推移
(純減数の減少が継続)

(単位：百万円)	2019年8月期 連結実績	2018年8月期 単体実績	対前年比	2019年8月期 単体業績予想	対予想比
売上高	2,181	2,444	▲10.8%	2,169	+0.6%
営業利益	424	670	▲36.7%	400	+6.2%
営業利益率	19.5%	27.4%	▲7.9pt	18.4%	+1.1pt
経常利益	426	685	▲37.8%	409	+4.3%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	204	395	▲48.4%	251	▲18.7%
期末有料掲載店舗数(店)	20,616	22,981	▲2,365店	20,800	▲184店

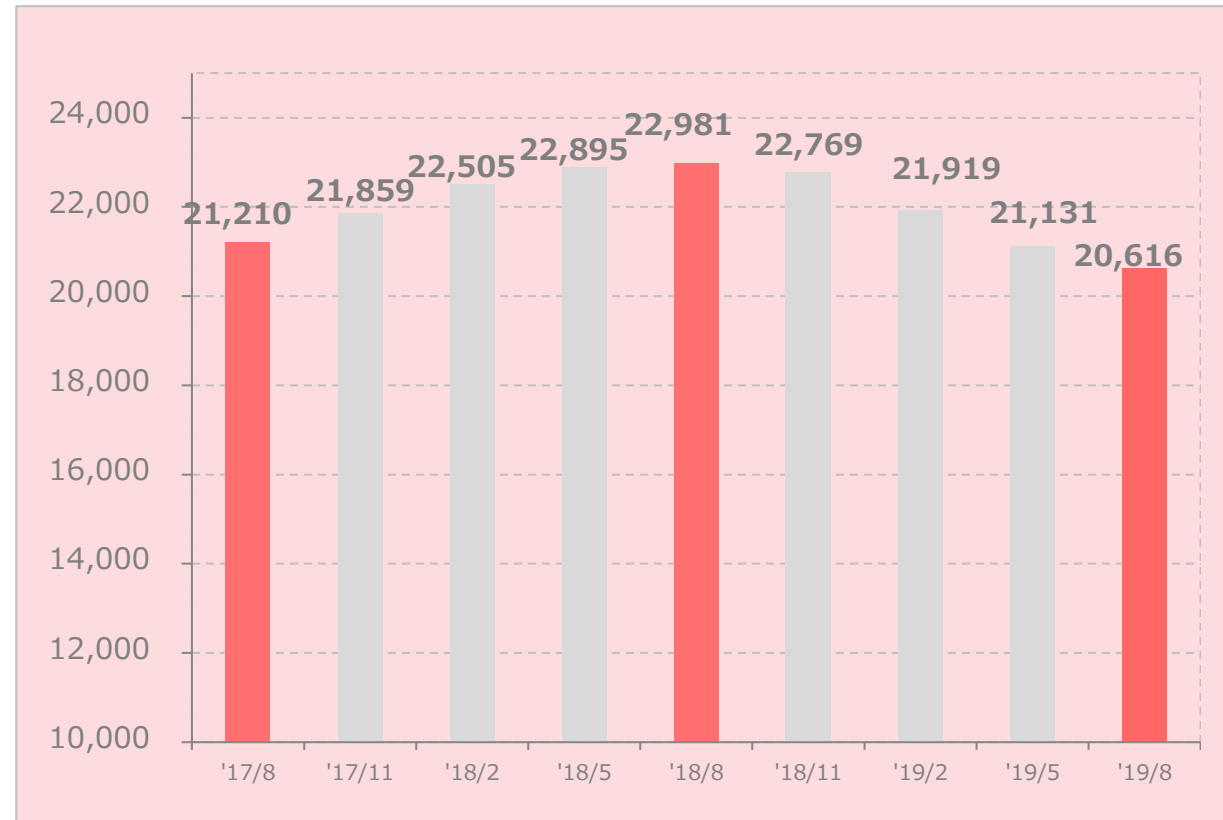
※2019年8月期末より連結決算に移行しております。上記では、業績の推移をご覧いただくため、2018年8月期は単体の数値を記載しております。

- 4Qの無料掲載店舗の純増数は**10,114店**、有料掲載店舗の純減数は**515店**。
- 無料掲載店舗数は、Web広告出稿等により順調に推移している。
- 有料掲載店舗数は、集客効果は上がり解約件数は減少してきたものの、受注の回復はこれからの状況。

無料掲載店舗数推移



有料掲載店舗数推移



事業ドメインを拡充し、店舗集客メディアから
「**中小事業者のアクセラレーター**」へ

エントリー層の中小事業者に向けた低価格ITサービスを提供することにより、

まだITを導入・活用しきれていない中小事業者の生産性向上を加速させ、

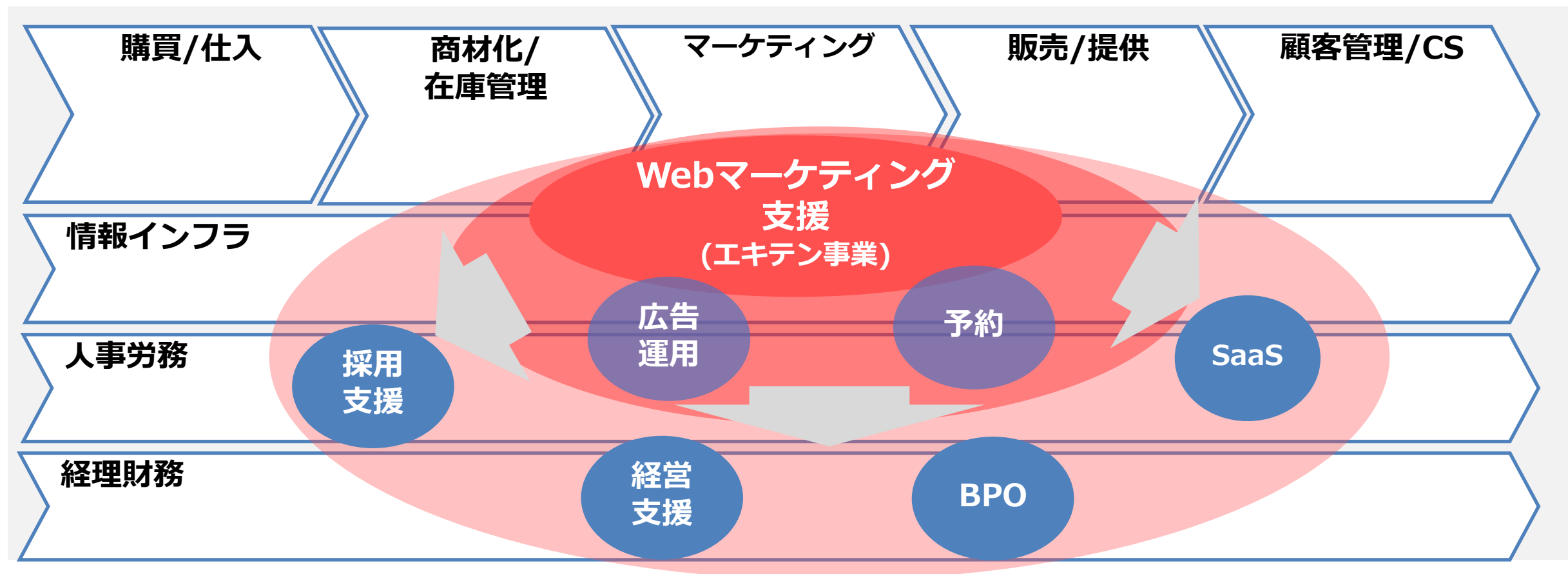
中小事業者起点で日本の経済を活性化する。

■ 取り組むべき重要課題の、事業別・目的別施策は下記の通り

	リード数の最大化	支援・サービス領域の拡大
エキテン事業	メディア集客力向上による 優良な無料店舗会員の獲得	商品ラインナップの強化・拡充による ARPU拡大
新規事業	従来のサービス業店舗以外の 中小企業も対象	低価格IT活用サービスの提供 (SaaS/BPO等)

中小事業者に向けた新たなサービス展開

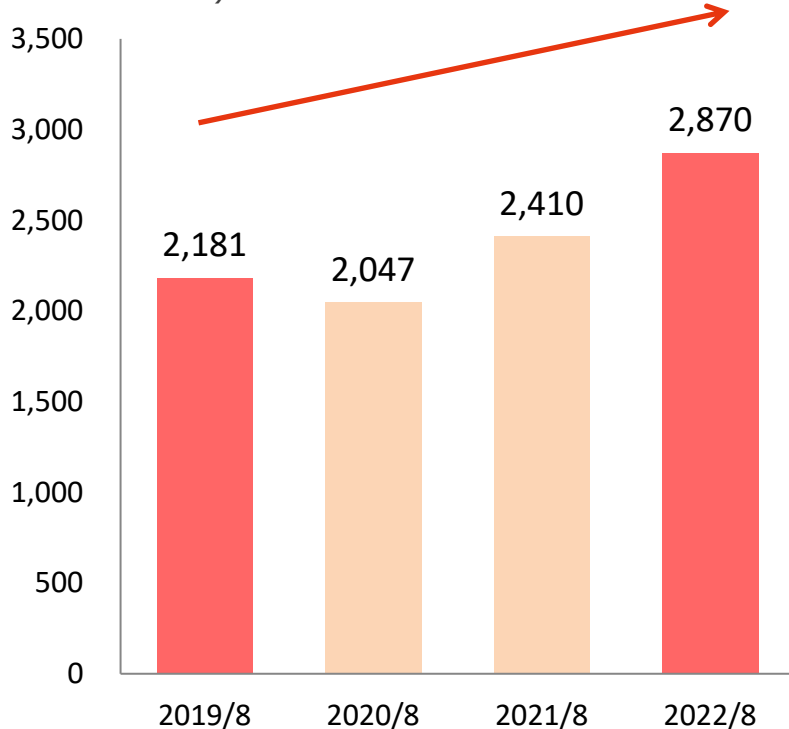
- Webマーケティング支援にとどまらず、中小事業者のバリューチェーンにおける様々な課題に対し、ITを活用した低価格な支援サービスの追加を図る
- 一事業者に対して複数の支援サービスの導入を推進することで、個別の単価は低価格でもトータルでのARPUの引上げを図れる事業体制を目指す



- エキテン売上の回復と新規事業の創出により、事業規模の拡大を目指す（売上高の成長を最優先）
- エキテン売上の回復を保守的に見積もった事に加え、新規事業創出への投資により利益水準は一時低下する見込

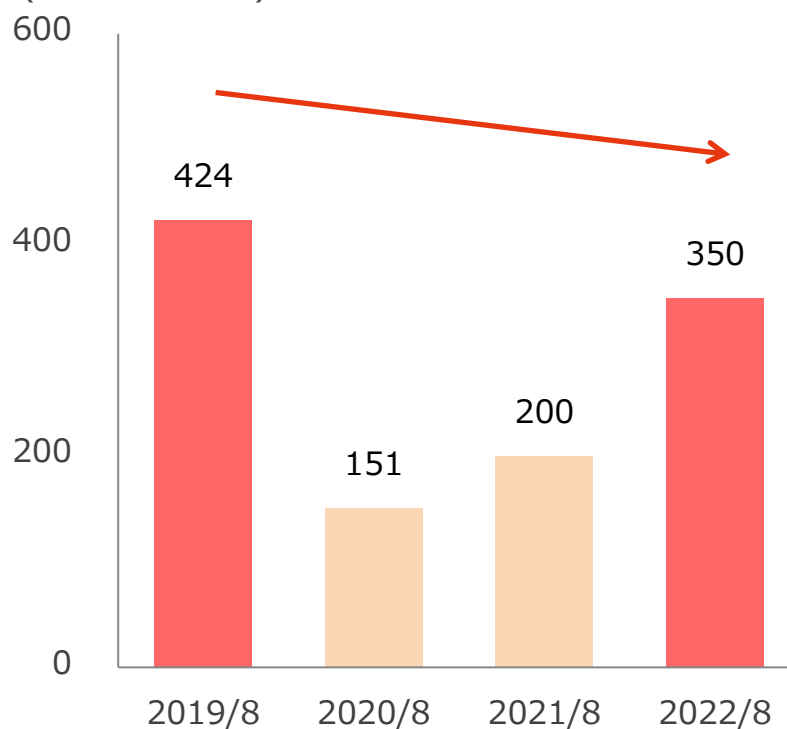
売上推移

(単位：百万円)



営業利益推移

(単位：百万円)



有料店舗推移

(単位：店)

